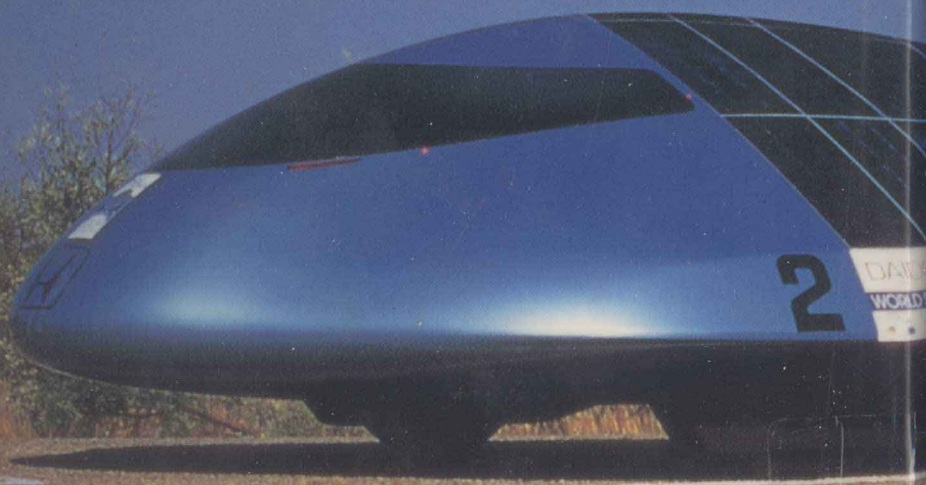


走れ! ラーカー

光と夢の3000キロレース

中部 博^ニ著



大日本図書

アクション・ワールド

走れ! ソーラーカー

光と夢の3000キロレース

中部 博 著

中部 博（なかべ・ひろし）

1953年、東京都生まれ。週刊誌記者やNHK教育テレビ司会者をへてルポライターとなる。主な著書に『流れる風は冷たいほうがいい』（筑摩書房）『1000馬力のエクスタシー』『自動車伝来物語』『本田宗一郎伝・世界が俺を待っている』（以上集英社）などがある。

走れ！ ソーラーカー●光と夢の3000キロレース

1996年9月10日 第1刷発行

著者 中部 博

発行者 金子賢太郎

発行所 大日本図書株式会社

〒104 東京都中央区銀座1-9-10

電話 (03) 3561-8678 (編集), 8679 (販売)

振替 東京 00190-2-219

印刷・金羊社 製本・宮田製本

NDC.374.97

ISBN 4-477-00744-2

Printed in Japan

©1996 H. Nakabe

159p 19.5cm×13.5cm

走れ！

ソーラーカー

光と夢の3000キロレース

目次

はじめに	4
------	---

一 熱帯の町ダーウィン	11
-------------	----

1	12
---	----

2	26
---	----

3	42
---	----

二 デッドヒート	55
----------	----

1	56
---	----

はじめに

この本は、ソーラーカーによる世界最大のレース、ワールド・ソーラー・チャレンジのルポルタージュです。

こう書くと、「世界最大のレース」ということばには、「本当かよ!」と思ったかもしれないけれど、

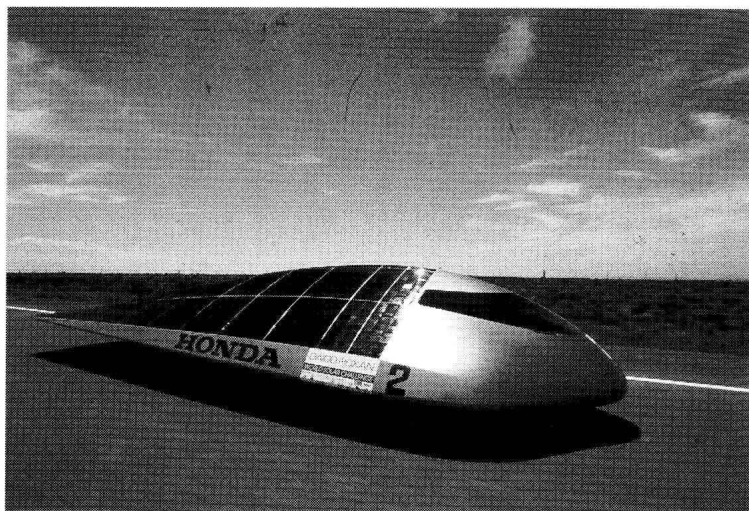
えっ、「ソーラーカー」って何?

「ワールド・ソーラー・チャレンジ」?

「ルポルタージュ」って、どっかで聞いたことがあるぞ。

と、なんだかわかるようで、わからないことばがあるな、と思ったでしょう。だから、まず最初に、この3つのことばについて説明しておきます。

この3つのことばを理解していれば、この本を読んで「世界最大のレース」を楽し



ドリーム号は高速で泳ぐマグロの姿を参考にした

むことができるからです。

では、一番目の「ソーラーカー」とは、何か。

上の写真を見てください。これはレーズ用のソーラーカー、ホンダ・ドリーム号です。カッコいいカタチに見えますか。それとも不思議なヘンなカタチだと思いますか。

ソーラーカーとは、太陽電池で発電した電気を使って走る、科学のクルマです。太陽電池は、写真のホンダ・ドリームでいえばボディ後半分の黒く見える部分です。太陽電池は光が当たると発電する

力があります。小型計算機には太陽電池がつけられているので、きつと見たことがあ
る人も多いと思います。太陽電池のことを「光をエネルギーにした、小さな小さな発
電所だ」と理解してもいいでしょう。この太陽電池は一九五四年にアメリカの科学者
が発明したものです。英語ではソーラーセル (SOLAR CELL) という名前です。
「太陽発電電池」という意味です。太陽電池は、単体ではとても小さいものなので、
実際に使うときは、これを貼り^は合わせて太陽電池パネル (ソーラーパネル=SOLAR
PANEL) を作って使うのがふつうです。

しかし、太陽電池が発電できる電気の量はとても少ない。このホンダ・ドリム号
の太陽電池パネルは、レース用のソーラーカーに搭載^{とうざい}しているくらいですから、もつ
とも高性能な太陽電池を使っているのですが、それでも発電できる電気の量は、およ
そ一六〇〇ワット。大きなヘアドライヤーを動かすのが精一杯^{せいいつぱい}の電気です。馬力に換^{かん}
算^{さん}すると、約二馬力。五〇CCオートバイの四分の一程度のパワーです。一軒^{いっけん}の家で
使う電気を太陽電池で発電するとなると、一〇メートル四方の広さのソーラーパネル

が必要です。

さて、ここまで説明すると、じゃあ、なんで、太陽電池は発電するんだろう？ という疑問がわいてくるでしょう。この質問に答えるのは、とても難^{むずか}しいことです。

専門家しか理解できないことが多すぎるからです。ただ、ひとつ言えることは、地球上には、光が当たると反応をおこす物質がたくさんあるということです。それらの物質の反応をうまく使って、太陽電池は発電していると理解してください。

ソーラーカーは、太陽電池で発電した電気をバッテリーにためて、その電気でモーターを回して、タイヤを回転させているのです。レース用のソーラーカーは、競争用だから、当然速い。ホンダ・ドリーム号の最高スピードは時速一二〇キロです。しかし自動車のように大きな音をたてません。モーターはエンジンより静かに回転しますから、シューっと風をきって走るクルマです。

では、二番目の「ワールド・ソーラー・チャレンジ」について説明します。

これはオーストラリアで三年に一度開催^{かいさい}される、世界最大のソーラーカー・レース

の名前です。ひとつずつのことばを日本語に訳すと、「ワールド」は「世界」、「ソーラー」は「太陽の」、「チャレンジ」は「挑戦」^{ちようせん}です。「世界ソーラーカー挑戦レース」とでも訳せばいいのか。うまい日本語が思いつかないのですが、ことばの意味は理解できると思います。

見返しにある世界地図を見てください。南半球にオーストラリア大陸があります。次にオーストラリア大陸の地図を見てください。北の端にダーウィン^{はし}という町がある。「ワールド・ソーラー・チャレンジ」は、このダーウィンがスタート地点で、ゴール地点は南の端のアデレード^{はし}という町です。大陸を縦断^{じゆうだん}するレースなのです。その距離^{きよ}は約三〇〇〇キロメートルもあります。日本でいえば、札幌^{さつぽろ}から鹿児島^{かごしま}までが約1600キロメートルですから、その2倍弱の距離^{きよ}になります。普通の国道^{ふつう}がコースとなるのですが、砂漠地帯^{さばく}を通る国道なので沿道^{えんどう}には民家がほとんどありませんから交通量が少なく、ソーラーカー・レースをやることのできるのです。もちろん、レースはスポーツですから、よく考えられた安全に関するルールがあり、これを主催者^{しゆさいしや}や参

加者が守ることで、国道でのレースが可能になるのです。日本では一般道路を使ったモータースポーツが開催できないので珍しいと思うでしょうが、世界の国々では道路を使ったレースが盛んに開催されています。

「ワールド・ソーラー・チャレンジ」は、なにしろ三〇〇〇キロメートルの長距離レースですから、スタートからゴールまで何日もかかります。参加する人たちは、いったい、どこで寝て、何を食べているのか。それはこの本の中に出てきますから、楽しみにしてください。

さて、最後になりましたが「ルポルタージュ」についての説明です。

このことばはフランス語で、「現地報告文」という意味です。「ルポルタージュ」を書く人を「ルポライター」（これは日本語の造語です）といいます。これを書いてある僕の職業です。僕は自分の目で「ワールド・ソーラー・チャレンジ」を見て、感動してきました。そして自分の耳でたくさん参加者の話を聞いて、感心したり驚いたりしました。そうやって見たり、聞いたりしたことを、おもしろい物語にまとめ

たいと思って書いたのが、この本です。

さあ、長い説明は、もうこれで終わります。

次のページから、世界最大のソーラーカー・レースに挑戦した人たちの物語が始まります。

一

熱帯の町
ダーウィン

オーストラリア大陸のほぼ最北端さいほくたんのダーウィンなんいは、南緯十二度三十分、赤道に近い熱帯地方の小さな港町である。

真つ青な空にぎらぎらと輝かがやく太陽は、まさに燃えているとしか言いようのないまぶしさだ。直射日光を浴びると、暑いというよりは、火にあぶられているような刺激しげきを感じる。ほんの数分間、町中を歩いているだけで、身体がまるでフライパンのうえのステーキになったみたいにくじゅうに、こんがりと焼きあがったような気分になる。それから、肉汁にくじゅうをしたたらせる感じで、汗あせが吹き出る。

温度計は、朝の八時前からすでに三十五度近くを示し、日中になると四十度を軽く越こす。午前中は冷たかったプールの水が、夕方には生温なまあたかくなってしまう。

海から吹く風は、心地良いが、生温なまあたかく湿しめっていた。その海はアラフラ海で、チモール島やジャワ島が浮うかび、インドや東南アジアにつながる。海岸にはヤシの木が

並び、町はうつそうとした熱帯のジャングルに囲まれている。樹木の緑の色はとても濃く、つややかだ。川や湿地には大型のワニが生息するという。

ダーウィンの町の人口は、およそ七万人。町の中心街には、いくつかのビジネス・ビルとホテル、ショッピングセンターやスーパーマーケット、レストランが点在している。しかし、いつも人影はまばらな静かな町だ。人々の生活は、穏やかすぎるほど穏やかだ。熱帯地方の小さな町では、時間がゆっくりと流れていた。

そんな静かな港町のダーウィンが、今、とてつもない興奮につつまれようとしている。

一九九三年（平成五年）十一月七日、午前八時。第三回ワールド・ソーラー・チャレンジが、この小さな町でスタートを切るからであった。世界十二か国から集まってきた五十二のレース・チームは町の郊外に点在する貸しガレージに整備基地を開き、レースのスタートが近くなると不思議な形をしたソーラーカーがダーウィン周辺の道を走り始める。

ワールド・ソーラー・チャレンジは、太陽の光をエネルギー源とするソーラーカーのレースである。

ダーウィンをスタートして、オーストラリア大陸を縦断し、南の町のアデレードまで、およそ三〇〇〇キロメートルを走り続ける、長い長いレースである。コースとなる国道スチュワート・ハイウェイは、大自然そのままの砂漠を貫く一本道だ。今から二百年ほど前、オーストラリアが建国されたころ、砂漠の旅に出たスチュワート探検隊が命がけて開拓した道である。

そんな大自然の大地で、現代の科学技術の粋を集めて作られたクルマが、スピードと耐久力を競い合う。ワールド・ソーラー・チャレンジは世界最大規模のソーラーカー・レースなのである。

このレースの主催者はオーストラリア人のハンス・ソルストラップ。彼は、なぜ、この風変わりなレースを開催することにしたのかについて、こう説明している。

「ワールド・ソーラー・チャレンジを始めようと思ったのは、我々人類が直面してい